

# 直江 広治（なおえ・ひろじ）

## 1、プロフィール

民俗学者。青森県生まれ。東京文理科大学史学科卒。北京の輔仁大学講師、東京教育大学教授、筑波大学教授を経て清泉女子大学教授となる。昭和 41 年柳田国男賞を受賞。

<生没>

1917(大正6)年5月 23 日～1994(平成6)年2月1日

<代表作>

『屋敷神の研究』『中国の民俗学』『民間信仰の比較研究』『祭りと年中行事』『稻荷信仰』

<青森との関わり>

八戸市類家に生まれる。5歳の時に東京に引っ越すが、父の教育方針により一年間だけ八戸中学校に通う。

## 2、作家解説

1917 年5月 23 日、青森県八戸市類家に父・孝、母・みちの子として生まれる。5歳の時に東京に引っ越すが、小学校卒業後は父の教育方針により八戸に戻り、寄宿しながら八戸中学校に通う。この頃八戸で小井川潤次郎と出会った。

東京府立第三中学校(現東京都立両国高等学校)を卒業後、1935 年東京高等師範学校文科第四部地歴科に入学する。1936 年柳田国男の『山の人生』と出会い民俗学に惹かれ、それ以来柳田の著作を多く読む。1937 年の夏休みに一人で樺太を訪れた際盧溝橋事件が起こり、中国民衆の生活を何も知らなかったことに衝撃を受ける。1938 年東京文理科大学史学科東洋史学専攻に進学し、有高巖、肥後和男に師事する。樺に由来する地名研究のレポートを携え、同級生の千葉徳爾と共に柳田を訪ねる。それ以降柳田に私淑するようになる。

1938 年朝鮮・満州・中国を旅行する。1939 年民間伝承の会に入会し、「民間伝承」誌上に民俗研究の論文を発表する。1940 年卒業論文として「中国民間説話の民俗学的研究」を書き上げ中国に渡る。翌年北京の日本中学校の教師となり下宿生活を送る。1942 年日本中学校を辞職した後、山西学術調査に参加し風俗習慣の調査を担当する。9月私立北京輔仁大学日本語文化部の新設に伴い講師として赴任。大学では日本語、日本文学、日本民俗学を担当し日本民俗学の普及に努め、中国民俗学研究に没頭する。

1946 年6月帰国し、翌年東京文理科大学の講師として「中国古代伝承研究」を教える。また柳田のもとで日本における民俗学研究の中心機関・財団法人日本民俗学研究所の設立に携わる。1952 年東京教育大学文学部にて史学方法論を担当する。1966 年柳田国男賞受賞。1976 年筑波大学歴史・人類学系教授、附属小学校校長となる。1981 年定年退職し、清泉女子大学教授となる。1994 年2月1日死去。